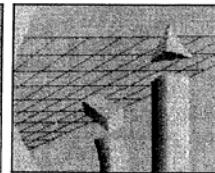


# モノグラフ・高校生'89

## vol.26 高校生と性



東京学芸大学教授 深谷和子  
埼玉県立越生高校教諭 三枝恵子

### 目次

はじめに	2
本報告書の要約	3
第Ⅰ章 サンプルの属性	6
1. 自分について	6
2. 家族について	9
第Ⅱ章 性についての意識と態度	11
1. 恋愛の是非	12
2. 性体験についての許容性	14
3. 婚前の性体験について	17
4. 売春に対する感覚	21
5. 性と友人関係	23
6. 妊娠と中絶	26
7. 10年後の予測	28
第Ⅲ章 性知識をめぐって	30
1. 性的用語の理解	30
2. 知識の情報源	33
3. 性の悩み	37
4. 性的用語の市民権	39
第Ⅳ章 生徒たちの異性体験	50
1. 初恋の頃	51
2. 異性との交際	52
3. 異性への思い	56
4. 異性との接触体験	58
5. 性体験と避妊	62
まとめ	64
資料1 調査票見本	65
資料2 基礎集計表	80
資料3 調査票見本および集計表(大学生用)	87
資料4 調査票見本および集計表(教師用)	92
資料5 調査票見本および集計表(母親用)	98

\*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

## ●はじめに

いわゆる発達加速 (acceleration) に伴って、近年子どもたちの生物学的性成熟は大きく前傾したにもかかわらず、われわれはそれに対して一向に十分な社会的対応を果たしていない。それが今日、若い世代の間に各種の性問題を増加させている原因であろう。この点に関して日本社会には、今後に向けて解決しなければならない大きな課題が与えられている。しかし性の問題を大声で語ることは今なおわれわれの間で、タブーに近い状態がある。とくに年輩の者たちにとってはそうであり、例えば青少年の性をめぐる実態についてもわれわれはデータひとつ分なものを持っていない状況にある。しかし性問題に限らず、現状を正確に把握せずに、はたして十分な対応策が生み出されるのだろうか。

今回のわれわれのレポートは、こうした経緯から高校生を対象に、その性体験、性知識、性に対する意識や意見、態度を明らかにしようとして作成されたものである。なおこの種の調査は性をめぐる文化的ひずみの下で、今日なお極めて実施しにくく、その後のフォローも含めて多大なご協力を賜った先生方や高校生の皆さんに、厚くお礼申し上げたい。性を語ることについての文化的ひずみ(タブー)

に挑戦しながら集められたこれらのデータが、今後青少年の性問題への社会的対応がより適切に、より速やかになされることに多少なりとも役立つことを願っている。

(調査票の作成に際しては、性に関する表現や質問の文章に十二分な配慮を加えたが、さらに実施に当たっては、クラス内で隣人と項目の配列の異なった調査票が配布されるよう配慮をした。すなわち巻末に掲げた調査票は

- A) フェイス・シート
- B) 性体験
- C) 性知識
- D) 性意識・態度

のように構成されているが、すべての生徒に A は共通に、B、C、D に関してはこれを切り離し、A・B・D、A・D・B、A・C・D、A・D・C の 4 種類の順序に配列された調査票を配布した。すなわち 40 人のクラスなら各 10 部ずつの調査票綴りがランダムに配布され、他人がどの部分に○印等を付けているかわからないように配慮した。回収後はそれを並べ直してデータ処理を行ったものである。)

なお調査時期は昭和 63 年 7 月～9 月であった。

平成元年 3 月

深谷和子(東京学芸大学教授)  
三枝恵子(埼玉県立越生高等学校教諭)



## 本報告書の要約

### ① 調査の目的

身体上の発達加速と性情報の氾濫、価値の多様化などの社会的条件下にある高校生が、性に関してどのような意識と態度、そして知識をもち、どのような対異性行動をとっているかを明らかにすること。それによって今後増加が予想される青少年の性問題への対応の基礎資料を得ること。

### ② 対象と方法

東京、埼玉、千葉の高校1年生から3年生計2,280名、比較のため国立大学の学生ら577名、母親386名、公立高校の教師170名、合計3,413名。高校生、母親、大学生は学校通しのアンケート調査で、また教師は東京と埼玉の教員名簿から500名をランダムサンプリングして、郵送法で行った。回収率は34%。調査時期は昭和63年7月から9月にかけて。また性という扱いにくいテーマであるため、記

入時にプライバシーが保たれるように、調査票の綴り込みに工夫をこらした。(前頁参照)

### ③ 結婚したい年齢

男子は24歳から25歳が34.7%、女子は22歳から23歳が42.9%。結婚は高校生にとって、かなり近い将来に予定されるイベントである。それに対する準備が、はたして教育上のプログラムの中に含まれているのだろうか (P.10表I-6)。

### ④ 恋愛と学業

高校生どうしの恋愛が学業の妨げになるとと思う者は、男子の場合は男子で47.2%、女子で42.3%、女子の場合は男子で48.0%、女子で42.4%。むしろ「よく勉強するようになる」と考える者が多い (P.12図II-1)。この点は母親や教師のほうがはるかにネガティブである (P.13図II-2、図II-3)。

## ⑤ 性関係

避妊さえ完全なら高校生どうし性関係をもってよいと考える者は、男子61.9%、女子57.5%(P.14図II-4)、この点も母親と教師は、高校生よりはるかにネガティブである(P.15図II-5)。

## ⑥ 恋人と性関係

恋人から性関係を求められた女子高校生に対する意見は、「応じてよい、拒否して恋人との間がこわれそうならしかたがない」をあわせると男子74.1%、女子65.7%と、性関係に許容的である(P.16図II-8)。

## ⑦ 女子の婚前交渉

現代では「性体験がよい結婚の妨げにならない」と考える者は男子の69.2%、女子の75.4%もいる(P.18図II-10)。

## ⑧ 高校生と壳春

「絶対いけない」とする者は男子で37.4%、女子で51.3%しかいない。「その人の自由」と考える者が予想外に多い(P.21図II-14)。壳春に対する嫌悪感が、他の世代(大学生、母親、教師)に比べて低すぎる点が気がかりである。

## ⑨ 妊娠した場合

誰にうちあけるかをたずねると、親友が群を抜いて高く、男子の6割女子の8割近くに達する。担任には逆に「黙っている」が男子8割、女子9割(P.26図II-23)。

## ⑩ 人工妊娠中絶

高校生(の恋人)が妊娠した場合、結婚の約束があれば産むほうがよいとする者は女子56.3%、男子46.4%(P.27図II-25)。また一時退学してもまた復学して高校を卒業したほうがよいとする者は、女子で50.2%、男子60.7

%もいる(P.27図II-26)。

## ⑪ 10年後の日本

「高校生で妊娠しても学校を続ける生徒が現れる」と予測する者は(「たぶん」も含めて)男子女子ともにほぼ6割。「学校の授業で妊娠、結婚、避妊を扱う教科が必修となる」と考える者は男子女子ともにほぼ8割もいる。これらは彼らのニーズでもあろう(P.28図II-27)。

## ⑫ 性用語

性用語を高校生は非常によく知っている。とくに女子のほうが詳しい傾向にある(P.31図III-1)。しかしそれを仲よしの友人の間で使えるかどうかは、大学生の場合には女子のほうが抑制的だが、高校生はそれほど性差が大きくな(P.41図III-2、P.42図III-3)。また大学生、教師と比べても、高校生は最も使用に抑制的である。それは彼らの性に対する感受性の大きさ、過敏性を示すものであろう。また同じ性用語でも成績上位の者と下位の者では、知っている種類に違いがある(P.32表III-1)。

## ⑬ 情報源

性知識の情報源は、友人、週刊誌、また種類によっては保健の授業が大きな役割を果たしている(P.33表III-2)。

## ⑭ 性交

初めて性交の意味を知った時期は、男子女子とも中1がピークである(P.34表III-3)。またその情報は友人からが1位である(P.35表III-4)。

## ⑮ 悩みの相談相手

性に関する体の悩みも、異性とのつきあい

上の悩みも、相談相手は他を離して「友達」である(P.37表III-7)。しかし「誰にも相談しない」とする者はとくに「体の悩み」について多く、男子の75.4%女子の50.7%にも達する。

#### ⑯ 性教育

高校教師で「性教育」をほとんどしていないと答えた者は、男性79.7%、女性74.1%にも達する(P.39表III-10)。また教師自身、過去に自分が性教育の授業を受けた者は、1割程度にすぎない(P.39表III-11)。

#### ⑰ 初恋

初恋もしくはそれに近い感情をもった時期はバラツキが大きいが、幼稚園時代から中2まで男子84.4%、女子84.8%が、その体験をしている(P.51表IV-1)。またその対象は同級生が8割(P.51表IV-2)。

#### ⑱ つきあっている相手

現在つきあっている相手のいる者は、男子15.0%、女子20.3%で、意外に少ない(P.54図IV-2)。また成績との関連では、上位者と下位者に多い(P.55表IV-8)。相手は同級生が60%だが、女子では社会人が2割もいる(P.55表IV-9)。

#### ⑲ 相手に対する気持ち

相手のいる者では、恋人としてつきあっている者が約8割、結婚を考えている者が3割(複数回答)である(P.56図IV-3)。また性関係をもっている相手については、女子のほうが「恋人として」「将来結婚するつもりで」と答える者が多いのは可哀想でもある(P.57図IV-4)。

#### ⑳ つきあいの費用

異性とつきあう場合、食事、お茶、映画の費用はワリカンは少なく、たいていが男の子もちのようである(P.61図VI-7)。

#### ㉑ 性関係と避妊

性関係をもった者について見ると、初体験を中学生時代にもった者が3割~4割もいる(P.62表IV-14)。そして初交の時に避妊をした者は約6割。多いというか少ないというべきか(P.62図IV-9)。

#### ㉒ まとめ

青少年の性問題に対応するため、ペアレンティングや性教育の必要性、相談機関の設置の必要性またそのための基礎資料の収集の必要性などを示唆される(P.64)。

### 〔調査概要〕

対象・東京、埼玉、千葉の公立普通科の高校10校  
の1、2、3年生

- ・東京、千葉、神奈川の大学生
- ・東京、埼玉の公立高校の教師
- ・東京、埼玉、千葉の母親

サンプル数・高校生 2,280名  
(男子1,007名、女子1,273名)

・大学生 577名

(男子164名、女子413名)

・教師 170名

(男子139名、女子31名)

・母 親 386名

調査時期・昭和63年7月~9月

調査方法・学校通しによる質問紙調査

・教師のみ郵送法(回収率34%)

# 第Ⅰ章 サンプルの属性



対象となった高校生は、巻末の集計表に掲げたとおり、東京、埼玉、千葉の公立高校10校の1～3年生2,280名(男子1,007名、女子1,273名)であった。なお高校生の性に対する知識、態度等と比較するために、大学生577名、母親386名、教師170名にも高校生用の

調査票を一部抜き出して実施した。これらのサンプルの総計は3,413名であった。調査時期は昭和63年7月から9月にかけてであった。サンプルのうち高校生以外の属性は巻末の調査票に記入した数値のとおりである。

## 1. 自分について

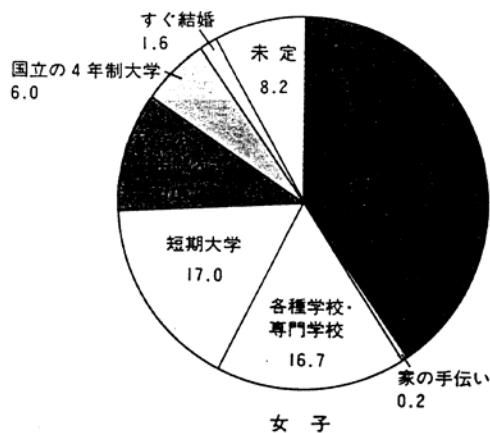
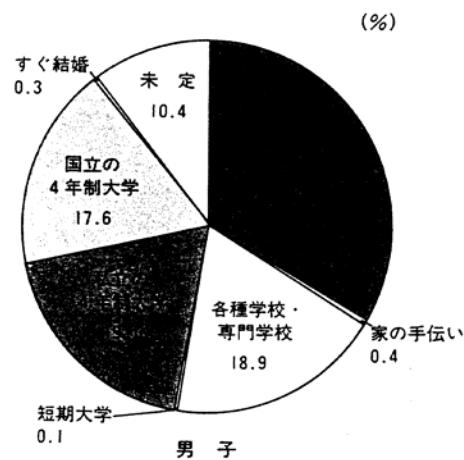
高校生についてのプロフィールのうち主たる部分を示すと、まず図I-1に示したように卒業後の進路としては、就職が男子33.2%、女子39.6%、~~＊~~某大進学希望者が同じく36.7%、16.7%となっており、図I-2、学校の楽しさでは、「とても・かなり楽しい」

が約3割、「ふつう」が約4割、「あまり・ぜんぜん楽しくない」が3割。また表I-1の成績自己評価では、ふつうより上(上、中の上)とする者は、悪い(中の下、下)とする者より少なく、全体としてやや自己の過小評価傾向が見い出される。また生徒の自己

像のプロフィールは巻末の集計表に記したが、表I-2によれば、「同性の友人は結構いるものの、異性に好かれるかどうかについては

全く自信のない自分」という自己像が見い出される。

図I-1 卒業後の進路



図I-2 学校生活が楽しいか

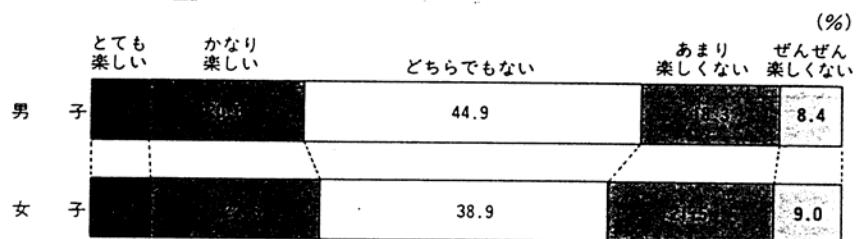


表 I - 1 成 績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
男子	11.4	15.8	30.3	19.3	23.2
女子	6.9	17.1	39.2	20.0	16.8

表 I - 2 自己像

異性に好まれるタイプ

(%)

	くつろいだ	少しでも	あまりくつろいだと思わない	せんせんくつろいだと思わない
男子	4.0	8.5	59.0	28.5
女子	2.1	9.4	52.8	35.7

同性の友人が多い

(%)

	多く	少しでも	あまり多く	せんせん多く
男子	32.4	40.3	20.2	7.1
女子	39.9	39.2	16.5	4.4

## 2. 家族について

両親の学歴は表I-3に示したように、義務教育だけの者が父母ともに3割強、大卒もしくはそれ以上が父親の22.8%、母親の6.7%となっている。表は省略したが父親の平均年齢は47.1歳、母親44.0歳であり、また職業は表I-4に示したが、母親の専業主婦率は33.7%となっている。表I-5には家庭の経済レベルを示した。

なお家族とのかかわりで、表I-6に「いつ頃結婚したいか」を示した。男子は24歳から25歳が34.7%、女子は22歳から23歳が42.9%と思ったよりピークが前にあることがわかる。結婚は高校生にとって、かなり近い将来に予定されるイベントとして、視野に入っていると言えそうだ。

表I-3 両親の最終学歴

	小卒	中卒	高卒	短大卒	大卒	大卒以上	(%)
父 親	2.0	29.3	43.0	2.9	11.2	11.6	
母 親	0.7	31.7	55.8	5.1	3.9	2.8	

表I-4 両親の職業

	農林漁業	商工	公務・行政・教員	医療・福祉	その他	(%)
父 親	0.4	33.7	44.7	8.3	2.3	
母 親	29.8	7.5	33.3	1.3	2.1	
夫	25.8	11.6	44.4	1.2	1.2	
妻	4.6	10.3	33.3	8.5	21.0	
夫婦	20.1	10.3	44.4	1.3	2.1	

表 I - 5 家庭の経済状態

(%)

	上・中の上	中	中の下	下
男子	18.8	38.5	32.7	10.0
女子	19.4	38.1	32.8	9.7

表 I - 6 結婚したい年齢

(%)

	18~19歳	20~21歳	22~23歳	24~25歳	26~27歳	28~29歳	30歳以上
男子	2.3	4.5	16.2	(34.7)	28.5	7.7	6.1
女子	3.4	10.8	(42.9)	30.4	8.8	2.0	1.7

## 第II章 性についての意識と態度



性についての意識は近年若い世代を中心には大きく変化した。たとえば大学生をとってみても、最近では女子学生がボーイフレンドを持ち性関係をもっていることを言葉の端々にのぞかせる。仲間はそれを当然のことのように受け入れる。旧世代の人間である教師にしても、必ずしもそのことに心おだやかでなくとも、時代が変わって来ているとの思いの下でその感情の表出を抑制する。少なくとも高校を卒業する年齢になれば、日本社会での若者の性関係も欧米ほどではなくとも、これまでのようなウラの位置からオモテへと、少しずつ様変わりを見せつつあるのではないかろうか。確かにこの年齢の若者たちが性的要求をもち、それを社会的な文脈の中で適切に表出し充足をはかっても、それはむしろ健康で自然なことであろう。

しかし高校生の性的要求の認識やとり扱いにわれわれ社会は、今なお適切さを欠いたままである。過ぎ去った時代そのままに、今後もその存在を無視し、その表出や充足を抑制し禁止しようとすることで、済むものだろうか。北欧やアメリカのような変わり身の速さは望むべくもないかもしれないが、日本社会はこの問題に対してもう少し認識や態度を改めるべきではなかろうか。

本レポートを作成するに当たっては、まず変わって来たとされる若者たちの性意識や性問題に対する意見を明らかにすることから始めよう。冒頭に指摘したように、高校生とその年齢の近い兄(姉)貴分であるところの大学生、そして彼らを担任している高校教師、そして母親たちのデータとも見比べながら見てゆこう。

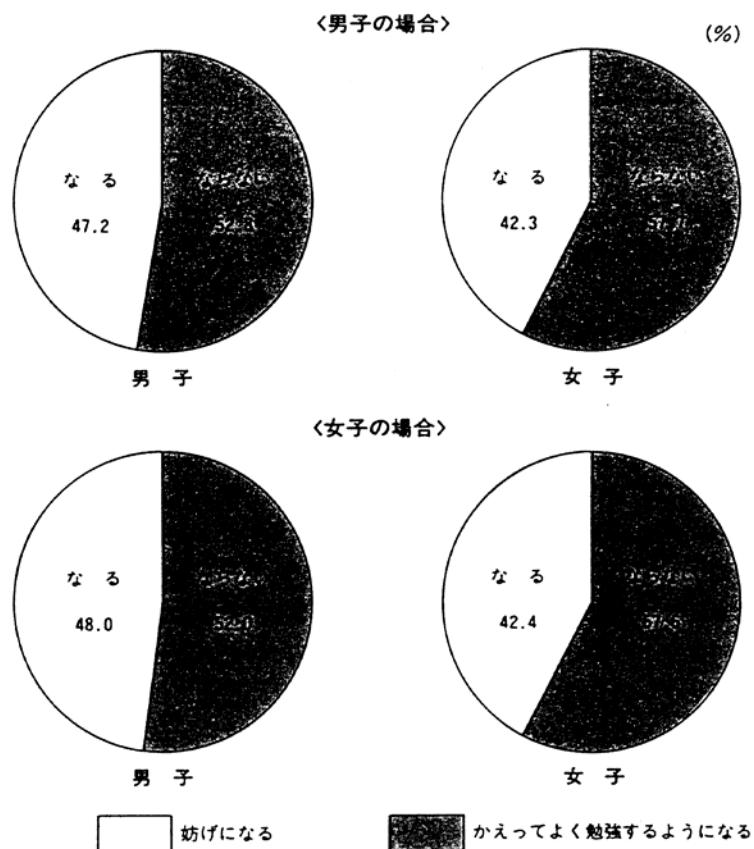
# 1. 恋愛の是非

性は歴史的経過の中で、ともすれば若者の社会的達成をはばむもの、という位置づけがされて来ている。恋愛したら勉強に身が入らなくなる、まして性関係は若者の身を危うくするとの認識に立って、男女の接触は社会的にも冷ややかなまなざしを浴びて来た。しかしこう見ても、愛や性について若い世代の考え方は大きく変わりつつある。

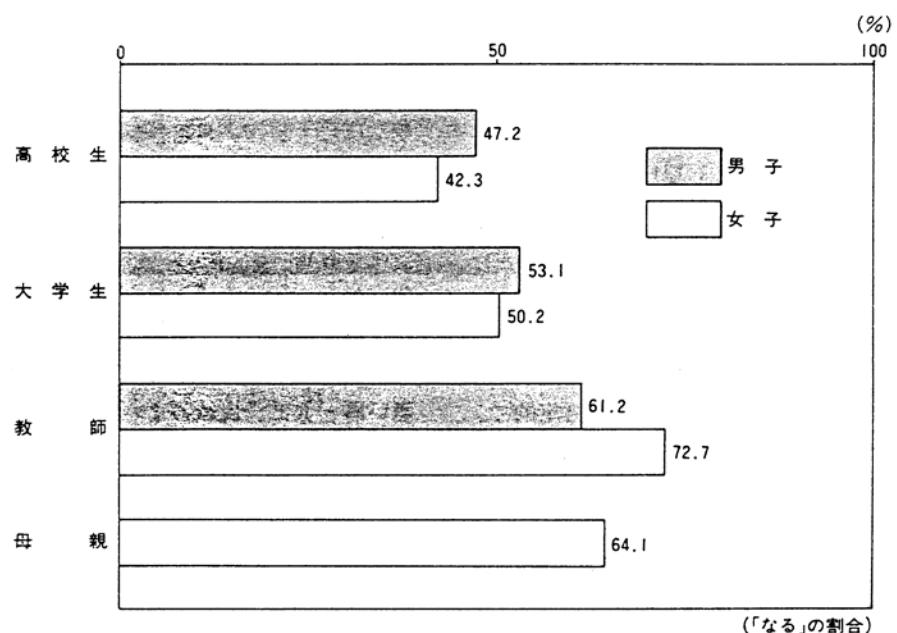
まず「高校生どうしの恋愛は」という問に対しても、図II-1に示したように男子の52.8%、女子の57.7%と半数を超える者たちが、高校生男子の場合恋愛は「妨げどころか、む

しろよく勉強するようになる」と積極的評価をしている。図下の女子についての場合も数值はほとんど同じである。しかしやや上の世代の人びとの意見は図II-2、図II-3に示したように違っていて、大学生、教師、母親の中では、教師(とくに女性教師)がいちばん恋愛に否定的で、男子の恋愛の場合に72.7%、女子の恋愛では77.3%が「学業の妨げになる」と言っている。その点ではまだ母親のほうが恋愛に理解を示している。大学生は高校生よりわずかに否定的だが、思ったほどの差ではない。

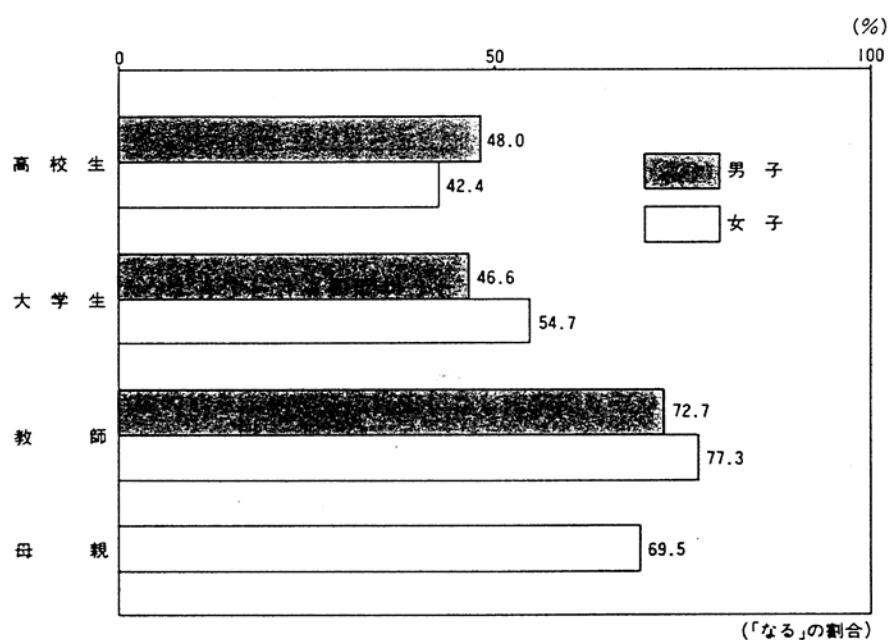
図II-1 高校生どうしの恋愛は学業の妨げになるか



図II-2 男子の学業の妨げとなるか×世代



図II-3 女子の学業の妨げとなるか×世代



## 2. 性体験についての許容性

図II-4、図II-5は、高校生の性体験に関する許容性を見たものだ。まず「避妊さえ完全なら、結婚を前提としない性体験も許されるか」に対しては、男子の61.9%、女子の57.5%がこれを肯定している。また図II-5に示したように、世代によって態度上に大きな差も見られる。男性のほうは女性より性体験に肯定的なのはどの世代でも共通だが、女性とくに大学生女子と母親は大きく否定的で、例えば母親でこれを肯定する者はわずか4.5%でしかない。教師も肯定率は低いが、この場合は逆に男性教師の27.4%、女性教師の29.6%が肯定している数字のほうを注目すべきだろう。保守的とされる教師集団もまた少しづつ変わってゆこうとしているのである。

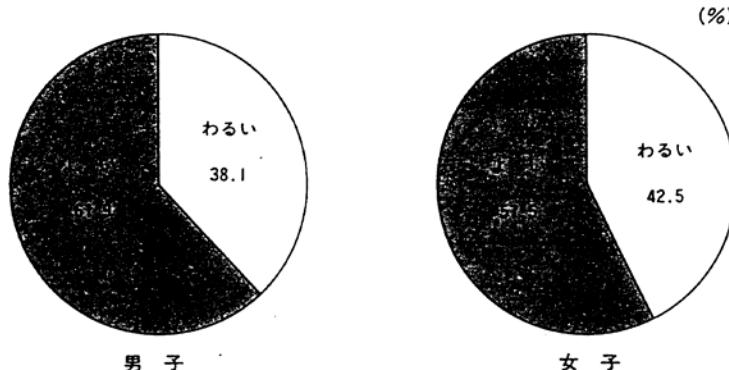
次に図II-6は、「結婚する約束があれば、性関係をもってよいか」である。これも男子63.0%女子59.6%と、肯定率は6割を越えている。こうした進んだ高校生の性意識の上に、今後の性教育を構想してゆく必要性はむろんのことだが、教師集団では男性教師31.5%、女性教師16.7%の肯定率であり、この高校生

との意識のズレを考えると、現実的にそのプランはむずかしい問題をかかえるだろう。またここでも母親の肯定率はわずか7.5%である(図II-7)。

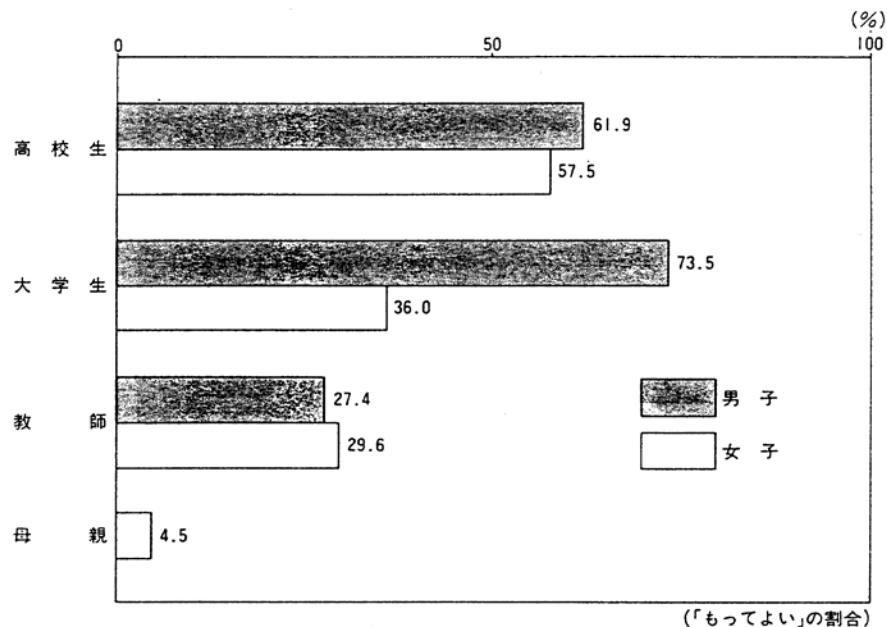
また表II-1、表II-2は、この点についての意見を生徒の成績で見たものだ。表が示すように全体としては成績との関連は薄いが、女子は成績の悪い層に、そして男子は成績の悪い層と共に、成績のよい層も肯定率が高めの傾向が見られる。

したがって図II-8に示したように、「恋人から性的な関係を求められた女子高校生」という仮定に対しても、断固「拒否すべきである」とする者は男子25.9%、女子34.3%しかいない。「避妊さえしていればかまわない」が、同じく52.5%、44.8%と優位を占め、「それを拒否して関係がこわれそうならば」をあわせると、男子の74.1%女子の65.7%にも達するのである。高校生は性関係について意識的に十分なレディネス下にあると言えそうだ。また世代別では、図II-9が示すようにとくに男子大学生がここでもまた極めて積極的である。

図II-4 避妊さえ完全ならば高校生どうし性関係をもってよいか



図II-5 避妊さえ完全ならば性関係をもってもよいか

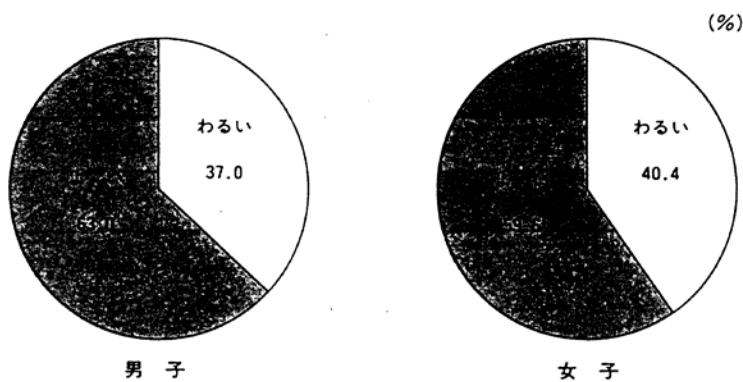


表II-1 避妊が完全なら性関係をもってもよい×成績

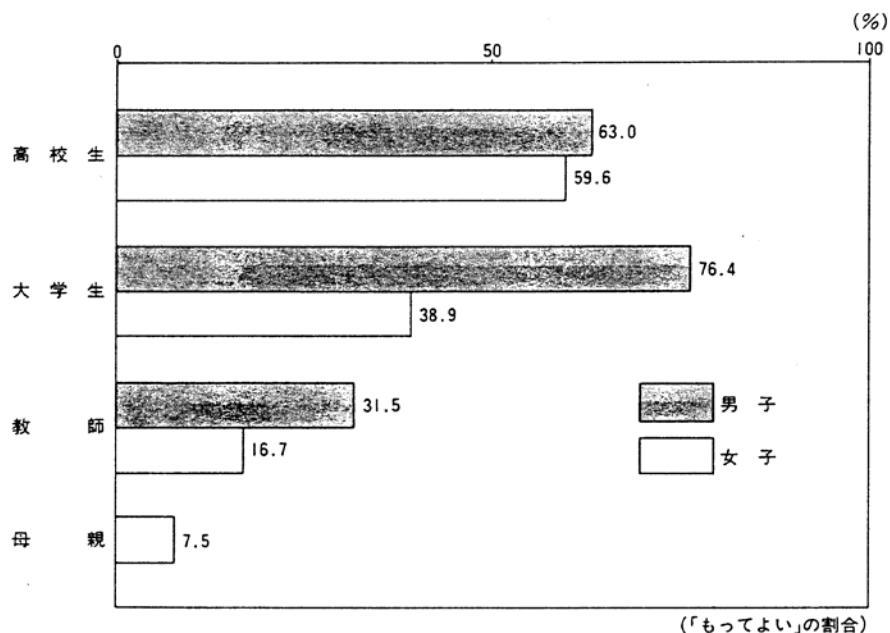
	上位の中	中位	下位の中
男子	62.0	52.8	66.2
女子	57.4	56.1	63.8

(「もってよい」の割合)

図II-6 結婚の約束があれば高校生どうし性関係をもってよいか



図II-7 高校生でも将来結婚の約束があれば性関係をもってよいか

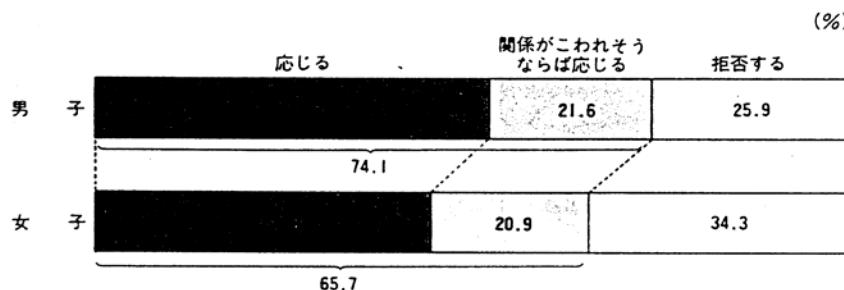


表II-2 結婚の約束があれば性関係をもってよい×成績  
(%)

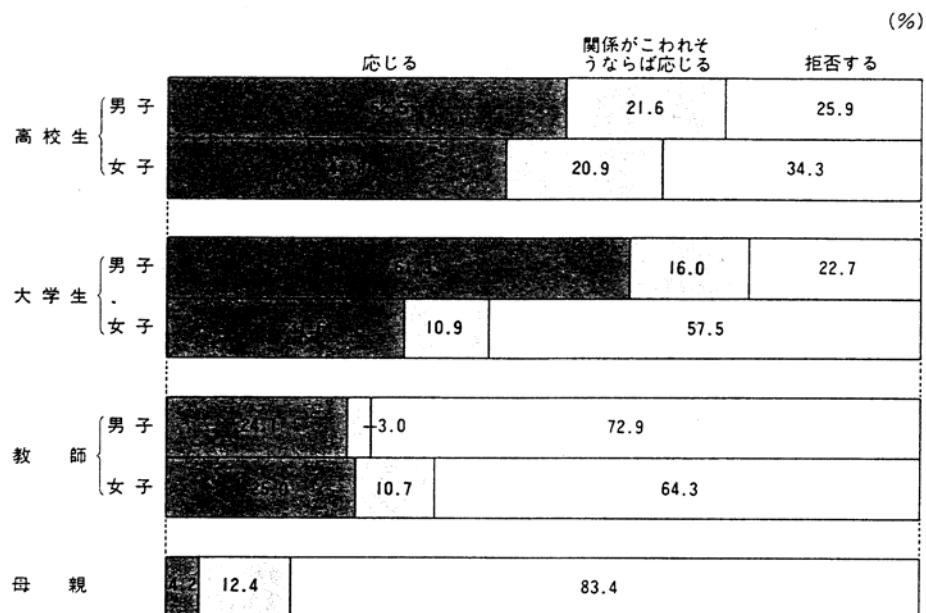
	上	中	下
男	64.0	56.5	(67.6)
女	56.2	56.0	(66.9)

(「もってよい」の割合)

図II-8 恋人から性的な関係を求められた場合



図II-9 恋人から性的な関係を求められた場合×世代



### 3. 婚前の性体験について

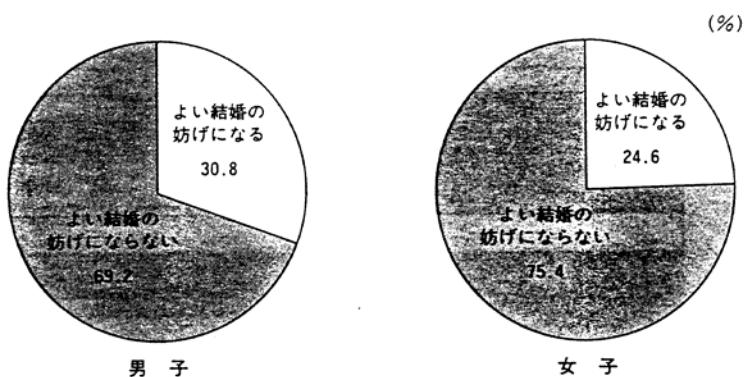
こうした（いわば）進んだ性意識の背景には、婚前の性体験が現在日本社会でどのくらい許容されているかについての生徒たちの認識があるにちがいない。

そこで図II-10は、「女子の婚前の性体験に社会がどのくらい許容的か（よい結婚の妨げにならないか）」をたずねた結果である。男子の69.2%、女子の75.4%が、社会がそれを許容していると答えている。その認識が正しいかどうか（実情とのズレの有無）は別として、とにかく彼らはそうした認識の上に行動しようとしている。そして実際はどうなのか。図II-11によると、高校生と年齢の近い大学生は当然として、教師と母親も半数くらいが今では「女子の性体験がよい結婚の妨げにならない」（相手の男性も気にしない）と

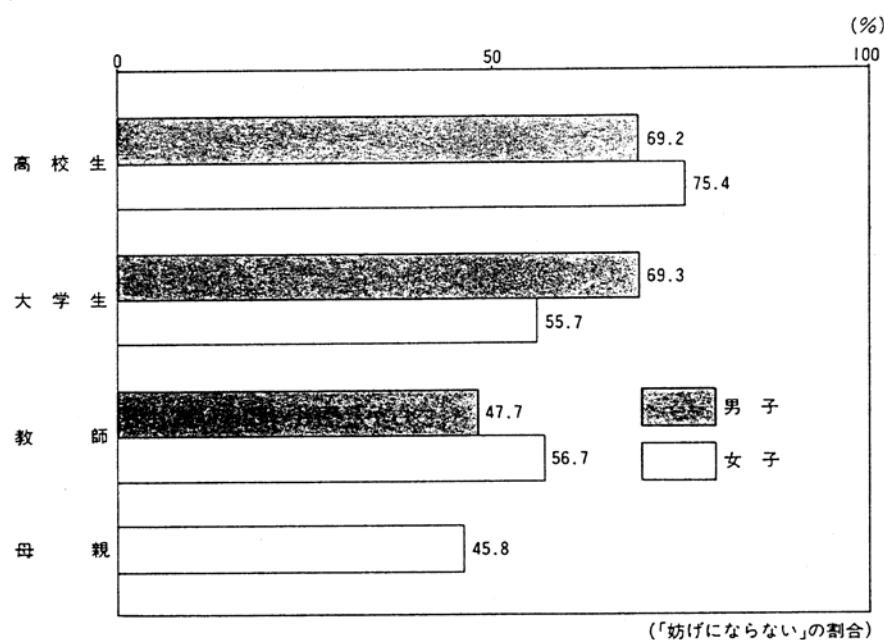
答えている。時代はいつの間にか変わって来ているのだろう。

しかし図II-12にはこれと少し違った態度も見い出される。「婚前に性体験をもっていったほうがよいかどうか」を男女別にたずねてみると、男子女子とも「男子は体験しておいたほうがよい（男子65.7%、女子69.3%）が、女子はしないほうがよい（男子63.5%、女子60.6%）」という、いわば一昔前の考え方が優勢なのである。この点は他の世代の人びとも同様である（図II-13）。高校生たちにしても、進んだ考え方の奥にやはり昔風の意識も残っている点が興味深い。性についての意識が根本から変わるには、日本の場合なお多くの歳月が必要なのだろう。

図II-10 女の子の婚前の性体験と結婚

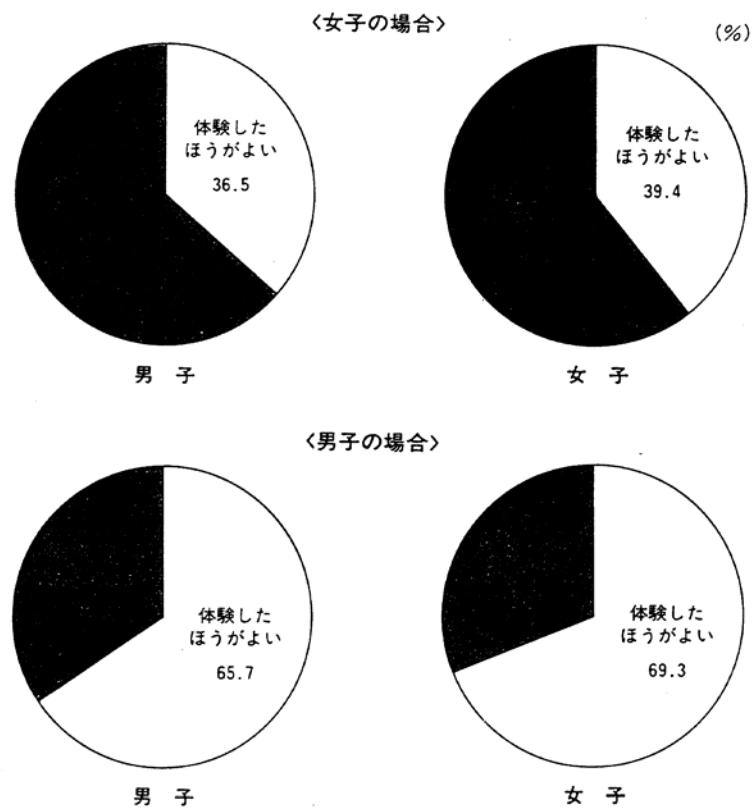


図II-11 女の子の性体験はよい結婚の妨げにならない×世代

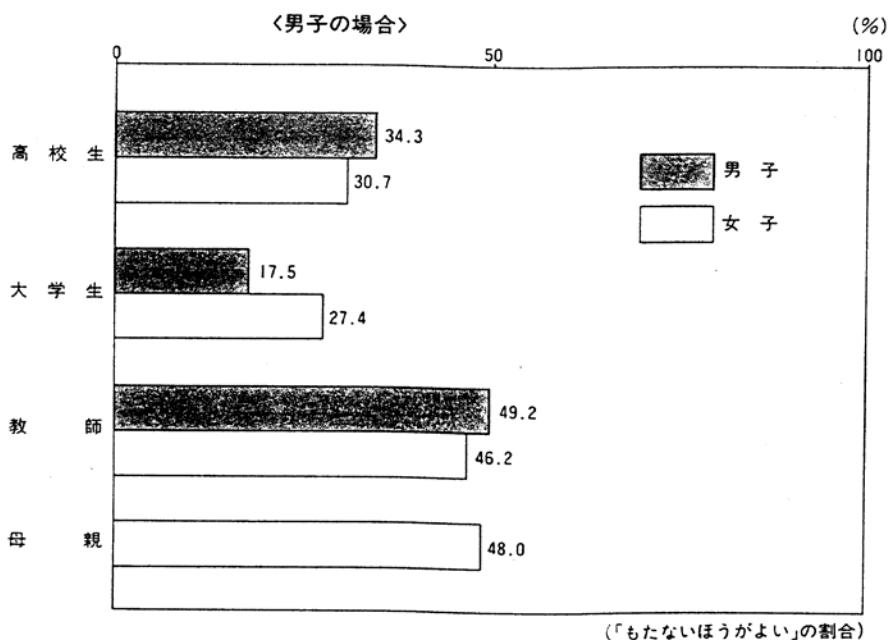
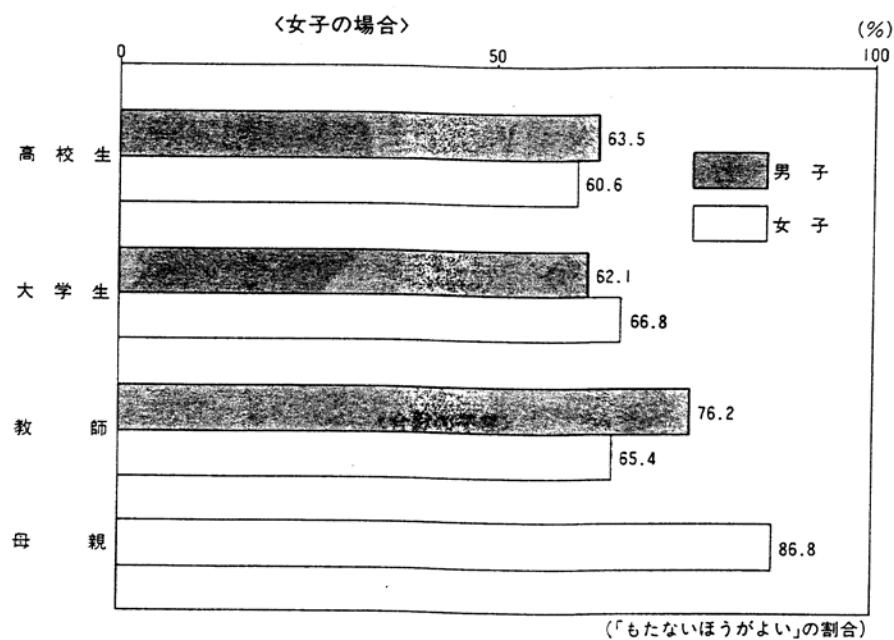


- { ① 現在でも女の子は性的な関係を体験していると、よい結婚の妨げとなる
- ② 女の子の性体験がよい結婚の妨げとなったのは過去のことで、現在は相手の男性もそれを気にしなくなった

図II-12 婚前性体験の許容性



図II-13 結婚前には結婚相手以外とまったく性体験をもたないほうがよい×世代



- {①. 結婚するまでは、結婚相手以外とまったく性体験をせずにいるほうがよい  
 2. 結婚するまでに何人かと多少の性体験をしておくほうがよい

## 4. 売春に対する感覚

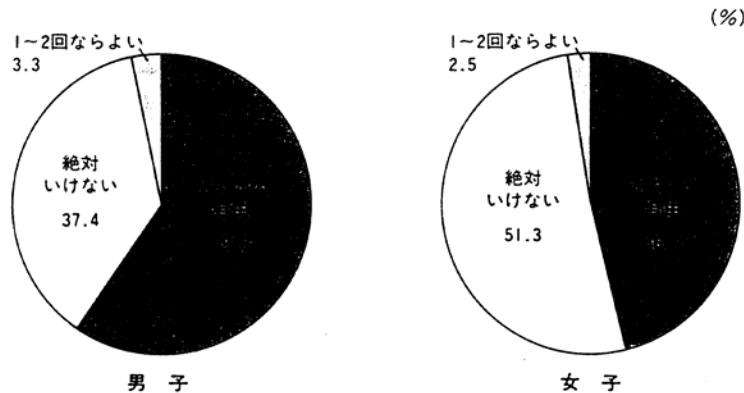
このような高校生の進んだ(?)性意識も、どこかで歯止めをもっていないと、それは容易に売春をも肯定するところまでいってしまうだろう。この点で、図II-14に売春の是非を聞いてみた。図が示すように「是と非」ははっきり分かれ、「1~2回ならよい」がほとんどないのも特徴的である。そして「その人の自由」とする者は男子の59.3%、女子の46.2%と、ほぼ半数もいることに、衝撃を感じる人びとも多いのではなかろうか。そしてこの点で他世代の人びとは高校生と大きく違っていることがわかる(図II-15)。とくに教師と母親でこれを肯定する者はほとんどいない。やはり高校生とは「危ない」世代なのであろう。

この点を成績との関連で見たのが表II-3だが肯定率は、成績の悪い層にやや高めになっている。また男子は成績上位者にもやや肯定率が高くなっている。

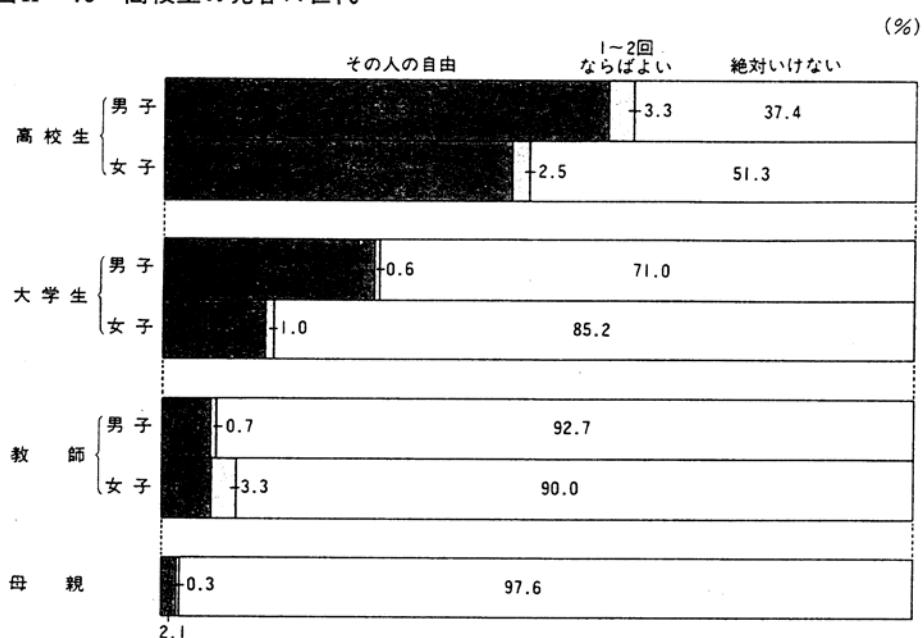
また図II-16は仲よしの友人が売春している場合を想定させ、売春への嫌悪感を見てみたものである。「その子とつきあうのをやめる」とした者は、男子でわずか29.0%、女子では5.5%しかいない。男子の5割、女子の7割が「今までどおりつきあう」としているのは、こわい数字ではないか。

以上のように売春への嫌悪感が、思ったほど高校生の中に育っていないのはなぜか。問題にしたい点であろう。

図II-14 売春している高校生について



図II-15 高校生の売春×世代

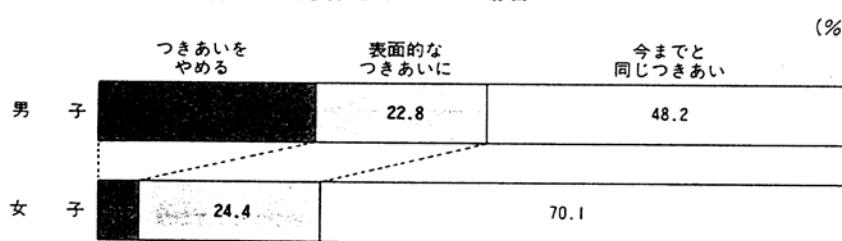


表II-3 売春している高校生について×成績

	上位の中の上	中位の中	下位の中の下	(%)
男 子	62.2	56.9	65.8	
女 子	42.7	46.0	48.9	

(「その人の自由である」の割合)

図II-16 仲のよい高校生が売春をしていた場合



## 5. 性と友人関係

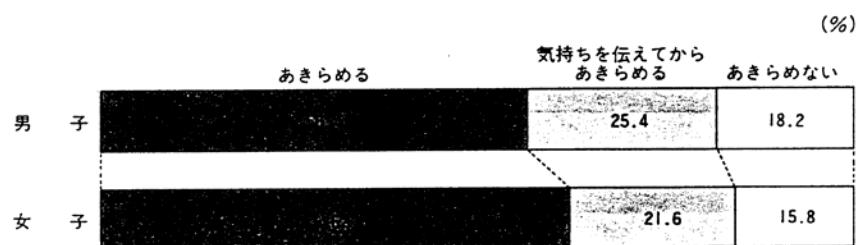
青年期の交友関係の特徴は、その中に異性との深く親密な関係が入って来ることであろう。単なる遊び仲間とちがったこうした異性関係と、それにより直接「性」がからんで来たとき、彼らはどう対応するか。

まず図II-17は「友達の恋人を好きになった場合」についてである。男子も女子も約6割が「あきらめる」と意外ないさぎよさであ

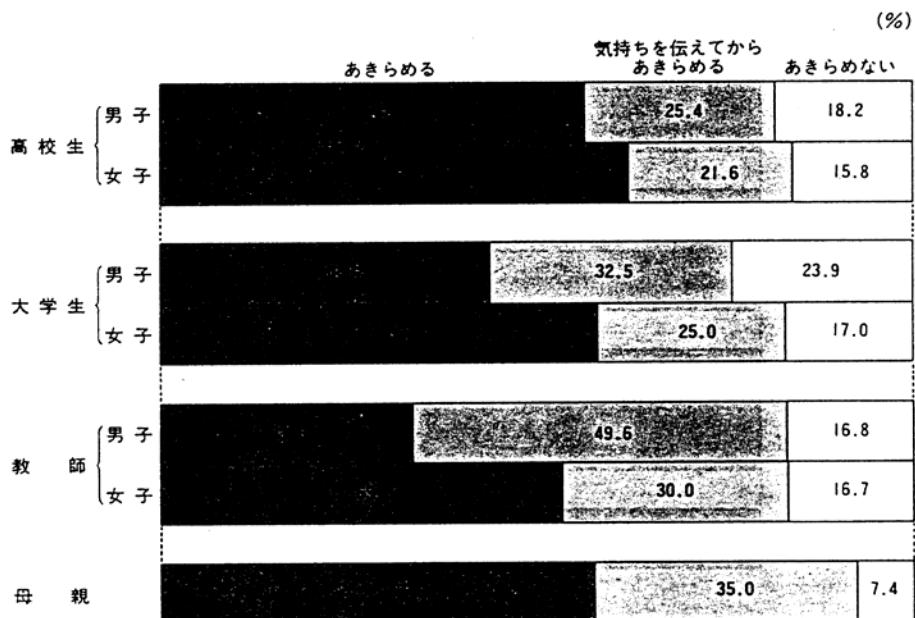
る。世代別では図II-18が示すように男性の場合は年齢が増加するほど簡単にはあきらめず「一応トライしてみて」がふえてゆく。女性の場合はほとんど高校生と反応が違わないのが面白い。

また図II-19は「性的にだらしない相手を好きになった場合」である。図が示すように、「気にせずつきあう」のは男女子とも約3割

図II-17 友達の恋人を好きになった場合



図II-18 友達の恋人を好きになった場合×世代

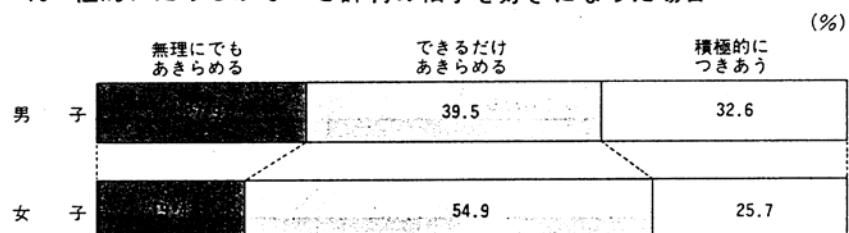


にすぎない。また世代別では男性の反応と女性の反応が、高校生と大きく変わるのが目につく(図II-20)。男子大学生はきわめて積極的であり、教師は高校生とほとんど同じ。女性の場合、大学生と高校生は同様だが、教師と母親は断念する者が大きく増加する。

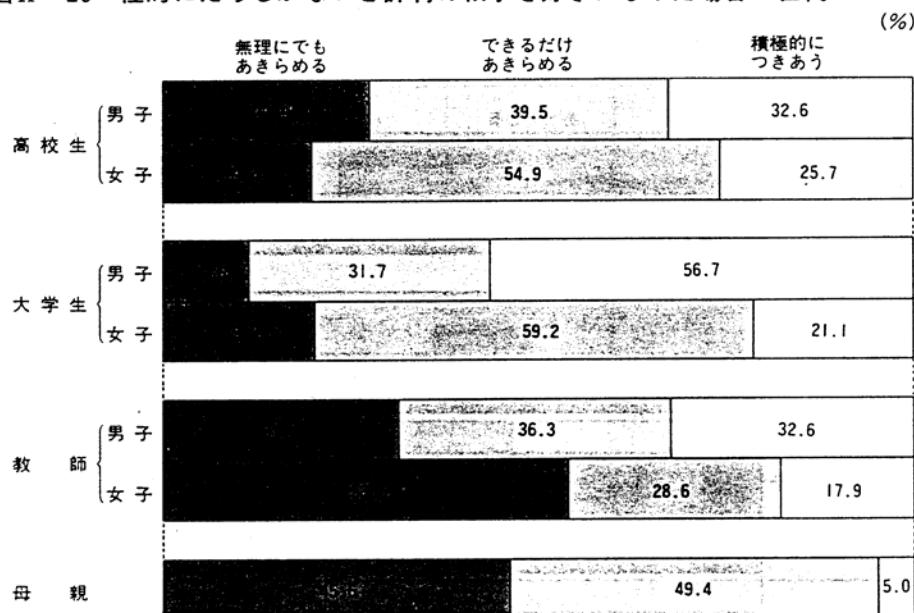
同じく友人関係に性が介入して来る場合で、図II-21は「好きになった相手が以前クラスメートと性関係にあった場合どうするか」である。いわば「性体験」を特別視するかどうかのフィーリングを見ようとしたものだ。図

が示すように、男子の43.7%、女子の42.5%は「昔のことは関係ない」としている。さきに図II-4で見たような婚前性体験が、社会的に許容されるかどうかの判断の一つの資料であろう。この点は図II-22にも見い出され、男子では大学生も教師も約5割が肯定し、女子の場合も「昔のことは関係ない」とする者が、大学生36.9%、教師51.6%、母親でも36.3%がそう考えている。(ただし女子の場合はむろん男性の性体験についてである)。

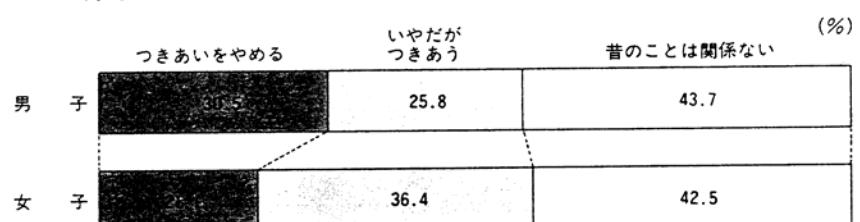
図II-19 性的にだらしがないと評判の相手を好きになった場合



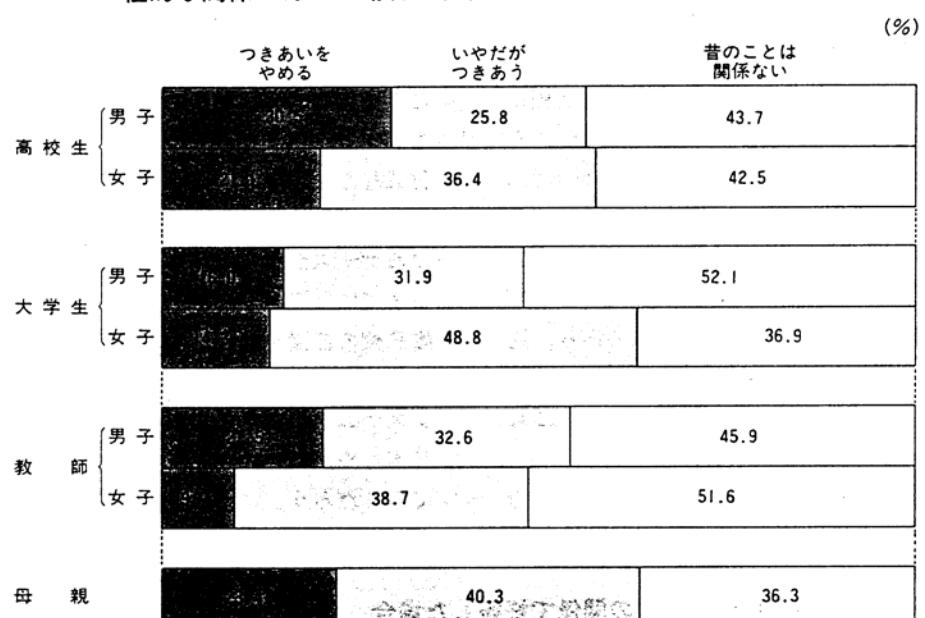
図II-20 性的にだらしがないと評判の相手を好きになった場合×世代



図II-21 好きになった相手が以前クラスメートと性的な関係にあった場合



図II-22 好きになった相手が以前クラスメート(別の相手)と性的な関係にあった場合×世代



## 6. 妊娠と中絶

高校生の妊娠と人工妊娠中絶の増加が言わされている。もちろん現状では妊娠は即退学を意味する（しかしこの点については、人権上の問題があると指摘する人びとも多い）から、中絶という手段に頼らざるをえないだろう。そうした場合に高校生たちはどう対応するのだろうか。

図II-23はそれをうちあけるかどうか（男子の場合は相手の妊娠について）である。図が示すように、この場合担任はほとんど相談相手にされない。母親にうちあける者が約5割、それより彼らがうちあける相手は「親友」であって、男子65.5%、女子76.3%となっている。

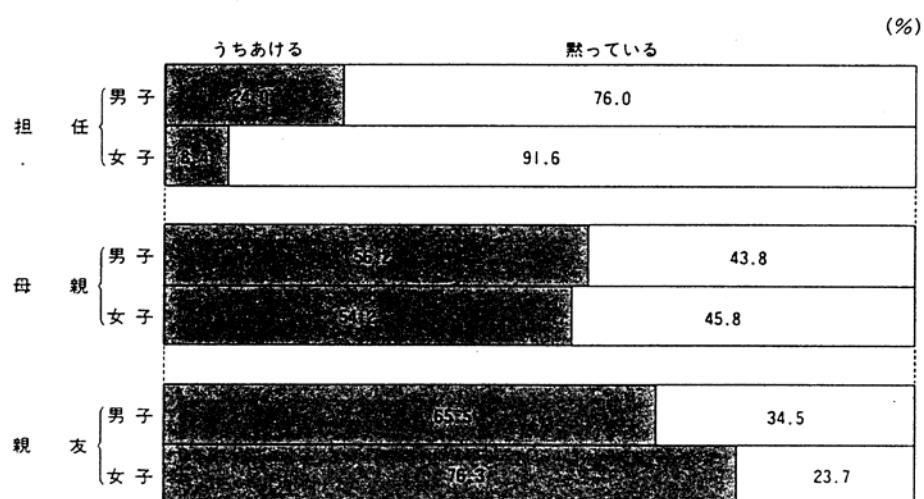
さて図II-24はその中絶費用を双方のいづれが負担すべきかをたずねた結果である。見事なほど「両方で半々」と答えられていて、その割合は男子の68.7%、女子の83.4%にも達している。

次に図II-25は、「その相手と結婚する約束があるときに、中絶するか、産むか」である。

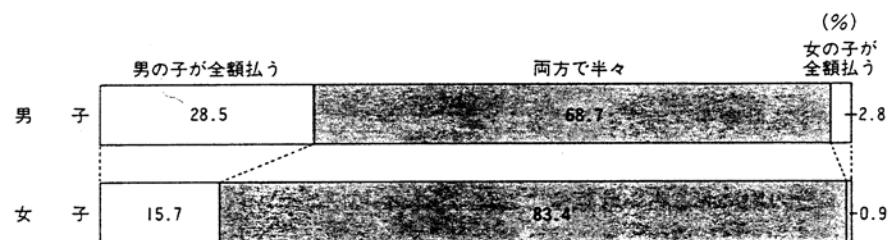
女子のほうが「産む」と答える者が多く56.3%、男子は逆に「中絶してもらう」が53.6%と多少の違いがある。しかしほば半数は中絶せずに産む（産んでもらう）と答えているわけで、意外に確かに彼らの意志の存在を感じさせられる。

となると高校をどうするか、の問題が出て来ることになる。図II-26が示すように、「一時休学して（してもらって）また高校へ戻る」ことを望む者は、男子の6割、女子の5割にも達する。アメリカでは今、ハイスクールに付設した Child Development Center が、妊娠した高校生の母親教育や赤ん坊のケアに当たるケースが出て来ていると聞く。そこに至るまでにはアメリカでも、退学は 물론、妊娠高校の設置を経て、やがて現在のように一般高校への通学の受け入れ、そしてセンター・システムと、変化して来ているのであれば、日本もやがてこの点を真剣に考える必要が出て来るだろう。

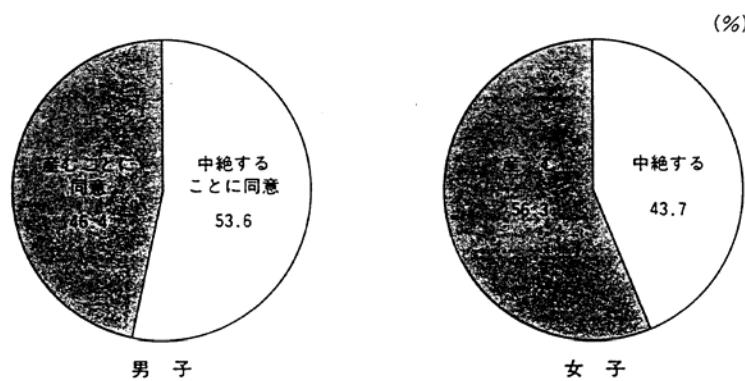
図II-23 高校生の恋人との関係で妊娠した場合



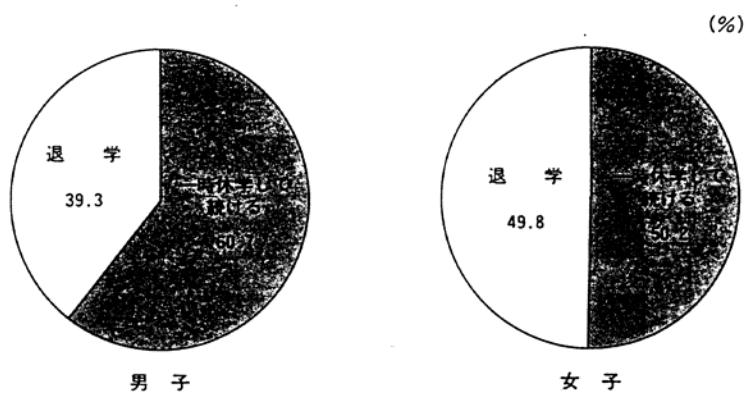
図II-24 高校生の恋人との関係で妊娠した場合・中絶費用について



図II-25 高校生の恋人との関係で妊娠した場合・将来結婚する約束をしたとき



図II-26 高校生の恋人との関係で妊娠した場合・高校は続けるか



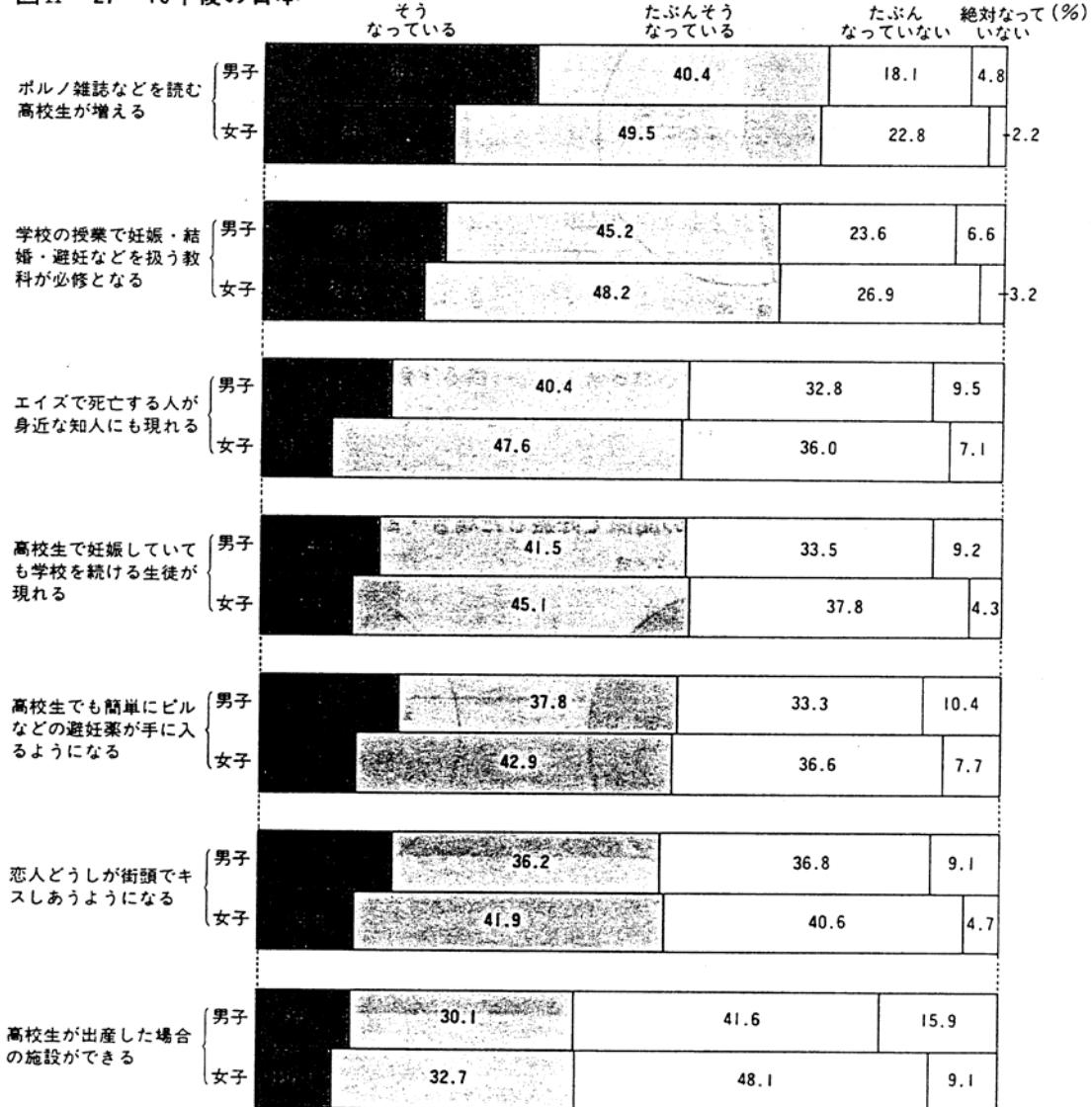
## 7. 10年後の予測

以上のようなデータが語るのは、彼らの性意識や性に関する態度が、様々な面でおとなたちと大きく変わって来ている点である。おとなたちが自分の中にある古い性意識にこだわり続けているうちに、現実ははるかに先へ進んで来てしまっているのであろう。

この点に関して高校生たちが、さらにこの先、性に関する現実がどう進むと考えているか、10年後の予測をさせてみたのが図II-27

である。この点は他のことと違って、若い世代の将来予測のほうが、当たっているのではなかろうか。また表II-4には世代別の反応を掲げた。とくに「街頭でのキス」「高校生の出産への対応施設」の点で、高校生が他世代より大きな出現率の予測をしている点が注目をひく。これは彼らの願望も含んだ反応かもしれない。

図II-27 10年後の日本



表II-4 10年後の日本×世代

男 子

(%)

	高校生	大学生	新規
「ホルン音楽など、誰も高校生が聴く」	36.7 40.4 77.1	57.7 28.2 85.9	34.3 49.6 83.9
「学校の授業で妊娠が基礎知識として扱われる教科が必須となる」	24.6 45.2 69.8	34.1 48.9 83.0	24.6 47.9 72.5
「死んで死んでる人が多く、死んでる人にも現れる」	17.3 40.4 57.7	14.6 32.3 46.9	8.0 29.9 37.9
「高校生で妊娠しても学校を続ける生徒が現れる」	15.8 41.5 57.3	12.8 39.0 51.8	9.6 41.2 50.8
「高校生でも簡単にピアノなどの音楽が手に入るようになる」	18.5 37.8 56.3	14.6 33.5 48.1	8.0 45.2 53.2
「老人の死後が葬儀で「火葬」が主流となる」	17.9 36.2 54.1	18.3 20.7 39.0	10.9 40.9 51.8
「高校生が出来た時に結婚が主流となる」	12.4 30.1 42.5	7.9 21.3 29.2	3.6 13.9 17.5

女 子

(%)

	高校生	大学生	新規	母親
「ホルン音楽など、誰も高校生が聴く」	25.5 49.5 75.0	39.7 41.6 81.3	35.7 35.7 71.4	22.3 57.5 79.8
「学校の授業で妊娠が基礎知識として扱われる教科が必須となる」	21.7 48.2 69.9	38.0 48.1 86.1	25.8 51.6 77.4	33.2 52.2 85.4
「死んで死んでる人が多く、死んでる人にも現れる」	12.8 45.1 57.9	7.3 39.9 47.2	13.4 43.3 56.7	4.7 41.8 46.5
「老人の死後が葬儀で「火葬」が主流となる」	9.3 47.6 56.9	5.4 34.9 40.3	0.0 33.3 33.3	4.5 35.1 39.6
「高校生でも簡単にピアノなどの音楽が手に入るようになる」	12.8 42.9 55.7	8.3 44.1 52.4	9.7 32.3 42.0	8.4 41.0 49.4
「老人の死後が葬儀で「火葬」が主流となる」	12.8 41.9 54.7	8.0 31.6 39.6	6.5 32.3 38.8	9.6 41.1 50.7
「高校生が出来た時に結婚が主流となる」	10.1 32.7 42.8	3.9 25.5 29.4	3.2 12.9 16.1	4.0 17.4 21.4

（「そうなっている」・「たぶんそうなっている」割合）